

-----2月9日-----

## 今週のアウトルック（2/9～2/13）

先週は米ドル、ユーロ、ポンドともに予想に反し一段高ということになってしまいました。

特に金曜日の米国雇用統計は、普通にとらえればかなり悲観的な内容だったにもかかわらず、ドル円、クロス円、NYダウともに大きく上昇しました。

理由は米国政府の景気対策期待、金融安定化対策等への期待によるものとされています。ただ、為替に関してはストップを巻き込んでの踏み上げ的な要素は強いように思います。

今週は節目となるレートを越えられるか、米国の景気対策、金融安定化策がある程度明らかになり、その後まだ対策から株価アップへの期待が膨らむのか、それとも一度材料出尽くし感からの利益確定が進むのかがポイントになりそうです。

米ドルは今年に入ってからの高値94.5円あたりを目指すのか、それとも利益確定からそのまま反転してしまうのかがポイントになりそうです。

基本的には米国政府対策の材料出尽くし感が強くなると考えています。

一度90円あたりを目指す展開、あるいは綱引き状態になってしまっただけの状態になってしてしまう可能性もあるように思います。

基本的には92円から93円まで上昇したら、売り戦略を考えたいと思います。

ユーロ円は3月の利上げ観測が強くなった途端に上昇しています。これも少し投機的、踏み上げ的な状況もあるように思います。

ユーロ円で130円、ユーロドルで1.3あたりが強いレジスタンスになっているようです。ここを越えてきてしまうと状況は変わってしまいそうですが、基本的にはこのラインに近くなれば戻り売りを考えています。

ポンド円は利下げ後、まだ追加利下げ余地を示唆するような発言も出ていますし、ポンド円で140円、ポンドドルで1.5あたりのレジスタンスは少し強いように思います。ここを越えられない限りはもどり売りを考えています。

このところ全般的に東京市場では円高、海外市場では円安状況を示す日が多いように思います。この状況が変わる、つまり東京市場も海外市場も同じトレンドをしまった時、その方向にトレンドが発生するような気がします。

## システムトレード的アドバイス

「損切りの利点はよくわからない？」

損切りを設定して、「ギリギリのところまで損切りにかかってしまい、その後相場が反転した。損切りをつけなければ利益が出ていたはずだった」

という経験をお持ちの方は多いと思います。

逆に損切りをきちんと付けていおいたために、難を逃れた。と感じることは少ないと思います。予想した方向と逆方向に動き出してしまい、損切りにかかってしまった後は相場の状況を気にかけるのは少ないためです。

「もし、損切りを付けていなかったらどの程度の損失が膨らんでいたのか」などと計算することもまずないと思います。また、「これほど、損失が膨らむ前にきちんと損失確定をしているはずだ」と考えることもできます。ただ、実際その状況になったら損失確定ができていたのかは実際わかりません。

損切りの利点を感じることは、一般的には少なくなるようにできています。それでも損切りをきちんと設定する利点は大きいです。

一度損切りがされたのちの状況を、きちんと確かめてみるのも良いように思います。

**\* 免責事項 \***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。